

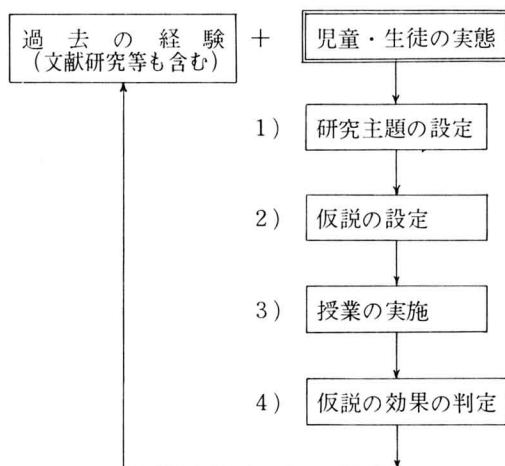
## 1. 実験的教育研究法とは

実験的教育研究法とは、教育事象一般について、当面解決がせまられている問題点に対して、これを解決するための何らかの方策を考え、これを実践にうつして、その効果を確認していく研究法をいいます。

学校において、実験的教育研究法は、学習指導法の改善の場に多く用いられていますので、この本では、研究対象をこの場に限定して、この研究法による研究のすすめ方について述べることにします。

この場合の研究手順は、次の4段階をふむこととなります。

- 1) 児童・生徒の実態から、学習指導上の問題点を掘り起こして研究主題を設定する。
- 2) 研究主題の解決策を考える。この解決策を仮説ともいう。
- 3) 仮説を適用した授業（実験）を実施する。
- 4) 仮説の効果を判定する。



この結果、効果があると判定された仮説については、以後の指導にこれを生かし、効果がみられなかった仮説については、いろいろと再検討することになります。

以下に、この手順の各段階について、説明することになります。